

チャレンジ！  
**野菜づくり**

栄養豊か、花も  
楽しめるオクラ

夏を越して晩秋まで果実(莢果)を取り続けることができ、フヨウに似た黄色い花は観賞用としてもめでられ、家庭菜園や庭先、プランター栽培ともにお勧めです。アオイに似た花は観賞価値もあり、秋遅くまで咲き続けます。花も実もある重宝な野菜といえます。

り、サラダやてんぷら、みそ漬け、かす漬けにと、使い道が広いのも魅力です。

高温性で昼は25〜30℃、夜は20〜23℃が適温で、10℃以下の低温では生育がまったく停止し、葉が黄変、落葉してしまいます。畑に植えたが一向に伸びず、落葉、枯死するという声がよく聞かれるのは、苗が低温に遭っていたり、植えた畑が寒過ぎたりした場合が多いのです。これを水不足と勘違いして水をやり過ぎると地温がさらに下がり、過湿となり立ち枯れ病が発生したりして失敗を助長してしまいます。

育て方のポイントは、苗は3号ポリ鉢に、一晩水に浸した種を4〜5粒まき、20℃ぐらいに加熱して育てるか、市販の苗を買い求め、

暖かい場所で再育苗し、十分暖かくなつてから畑に植え出します。最近はずいぶん早くから店頭で苗が並びますが、買い急ぎは禁物、失敗して再び苗を求めなくてはならない状態になってしまいます。

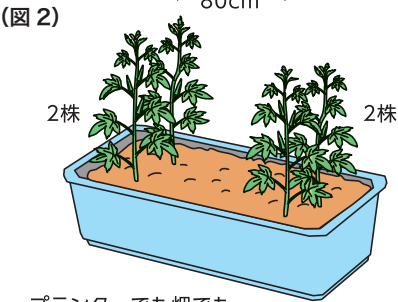
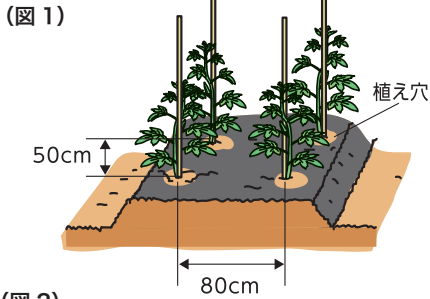
(図1)のように黒色ポリフィルムをマルチし、地温を上げてから植えることをお勧めします。

オクラの育ちをよく見ると、初期には枝分かれせず、1株当たりの花・果数は少ないので、それを補い、早期収量を高めるために、畑でもプランターでも、1カ所に2株ずつ植えること(図2)を勧めます。前半は葉もあまり込み合わないので、これでもちよど良いのです。盛んに育ち枝が伸びだしてきたら、主枝の上の方を摘心し(図3)側枝に日を当て、健全に伸びるよう

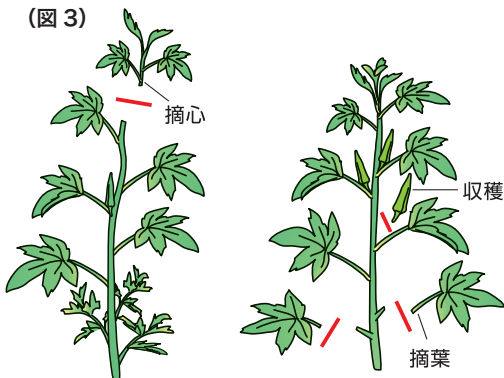
にします。

半月に1回、1株当たり小さじ1杯ぐらいの化成肥料を追肥します。

近頃各地で葉を筒状に巻き食害するワタメイガの発生が見られます。発見次第捕殺するか、適応殺虫剤を散布して防ぎましょう。



プランターでも畑でも1カ所2株ずつ植える



株が大きく育ったら主枝を摘心し側枝を伸ばす

果実を収穫したらその下方の葉は摘み取る

肥料・農薬のご紹介

頑固な雑草にお悩みなら…  
非農耕地用除草剤

「ハイバーX粒」



暖かくなる季節に向けて悩むのが、  
どんだん生えてくる雑草！

- 空地や住宅・倉庫の周囲
- 駐車場
- 墓地

広葉雑草・イネ科雑草に対して一年生・多年生を問わず除草効果を発揮します。しかも、長期間(約6カ月)にわたり雑草の発生を抑えます！

ポリ容器だから、手軽にまけて、さらに効果も強力！

1本(1kg)で約20坪(70㎡)散布できますので、一度、お試しください。

【注意】

- ・ 樹木や花・作物の近くでは使用しないでください。
- ・ 松はハイバーX粒剤に特に弱い木ですので、松の木の近くは避けましょう。
- ・ ラベルに基づき、ご使用ください。

※お気軽に各営農センター(営農購買課)へお問い合わせください。